

# ひだまりの保育園

1歳児担任 小池真菜



11月に園内研修があり職員がそれぞれ写真を持ち寄って、感じたことや子どもたちの育ちを共有し合った

鶴見区にある定員19名の小規模保育園

現在園児数 0歳児5名・1歳児9名・2歳児3名

ワンルームで保育

職員全員が全クラスの子どもたちと関わりをもつことができる



<事例1> 優しさの連鎖…



- ・2月生まれのHくん  
友だちから可愛がられる存在
- ・10月上旬 夕方  
2歳児のSちゃんに寝かしつけをしてもらう  
お互いの視線に注目  
まるで保育士、保護者の子どもへの眼差しそのもの
- ・嫌がることなく大好きな赤ちゃんの  
人形を抱いたまま横になる
- ・**10分**ほど寝かしつけをしてもらう  
その際ちらちらと笑顔で保育士の方を見ていた



- 10月下旬 夕方  
ぬいぐるみを持ってくるとぬいぐるみの  
顔を見ながら寝かしつけを始めていた
- いつも2歳児のSちゃんにやってもらっていた  
ように顔を覗き込みながらトントンをしていた
- 「るー♪」といつも昼寝の際保育士に歌って  
もらっている「きらきら星」のフレーズを  
口ずさんでいた





- ・ 11月上旬 夕方  
人形に対してより愛着が湧いてきたのか  
このような体制になった

- ・ 自分がしてもらって嬉しかったことを  
他者にもしてあげようとしていた  
→彼の嬉しかった経験が彼の優しさに  
繋がっていると感じた

#### **一方課題として…**

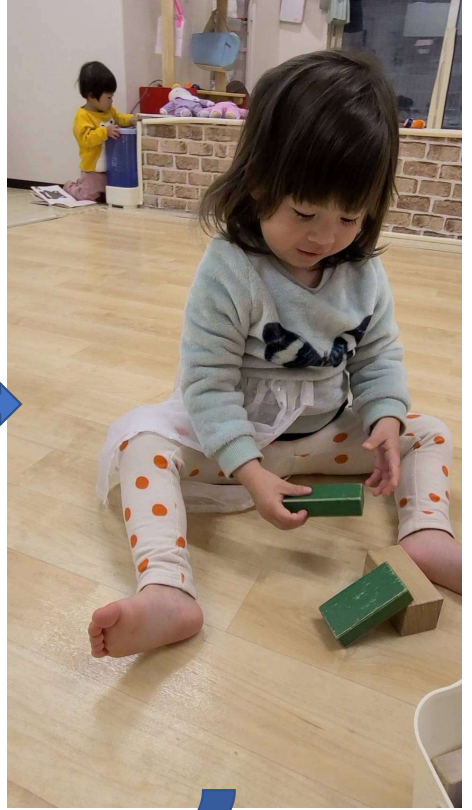
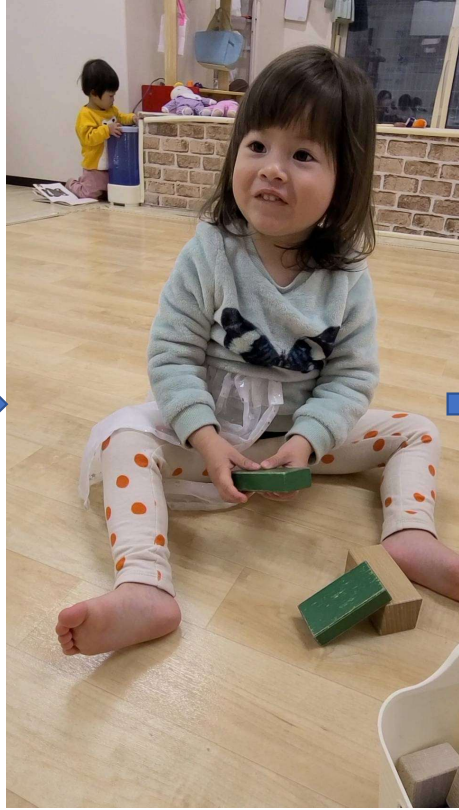
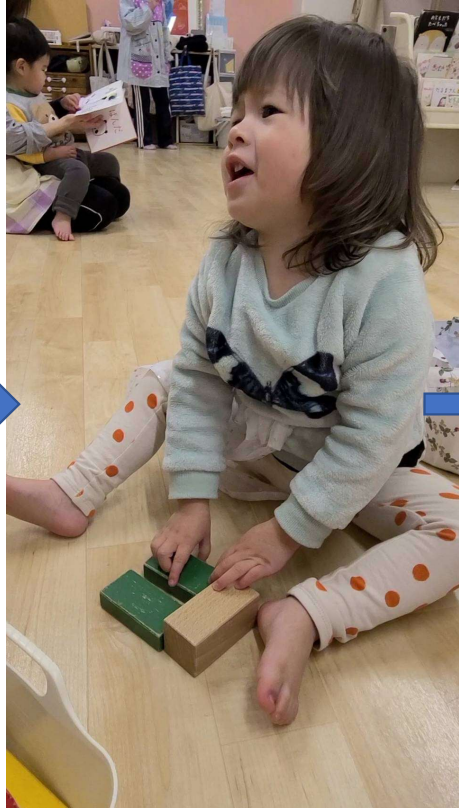
- ・ 夕方にこのような姿が多く見られるのは  
子どもの人数が減って落ち着いた雰囲気  
のなか遊べるからだと思われる

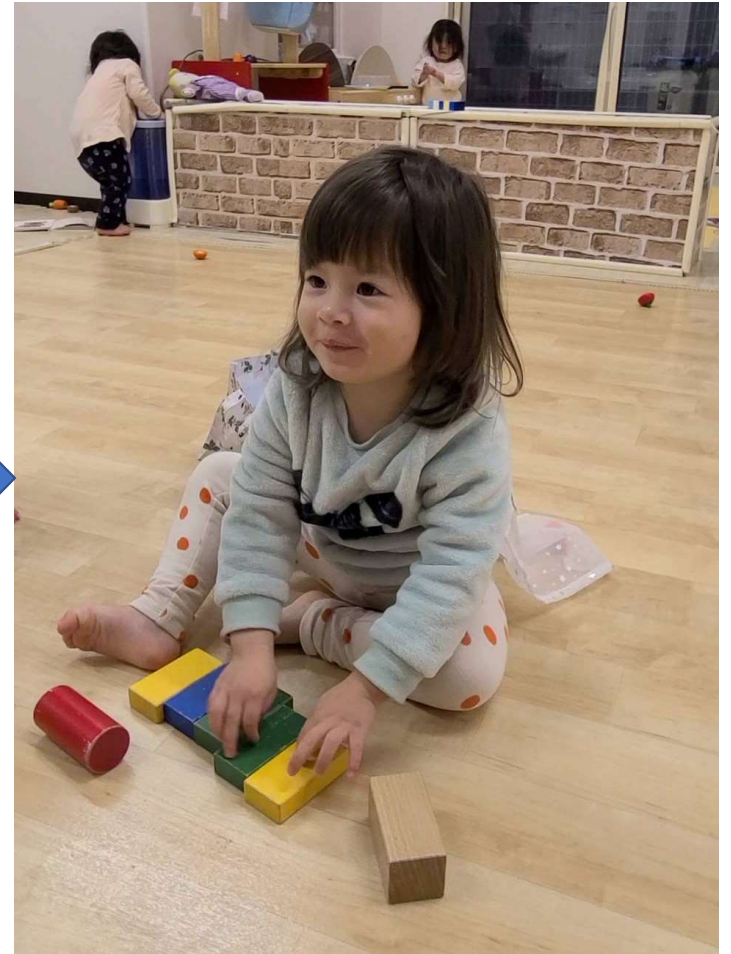
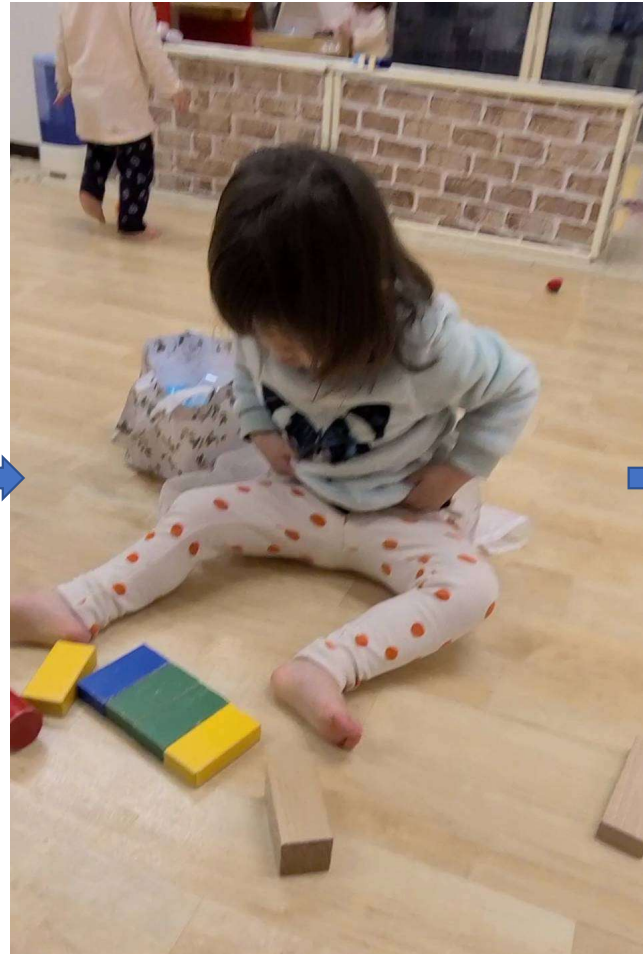
- ・ 日中も落ち着けるような環境整備が  
課題となった

<事例2> ねばり強くチャレンジする姿









失敗しても諦めない、いろいろな遊びを見つける子どもの目線の先には…



## 信頼できる保育士の存在があつてこそその姿



信頼できる大人に認められて  
褒められることによって  
「次はこうしてみようかな」  
「こうしたらどうかな」と  
失敗しても何度も果敢にチャレンジする  
しなやかな心を育むと同時に  
次への意欲にも繋がっている



## <考察>

### 2つの事例から

- ①自分が優しくされたり大切にされたりした経験やいつも愛情深く見守ってくれ自分を大切に思ってくれる大人の存在が基本的信頼の基を創ることが十分理解できる。
- ②その育ちが土台となりやがて自己肯定感を育み自分のことが好きで人にやさしくできたり、人の幸せが自分の幸せと思えたりする素敵な大人へと成長していく道筋であると改めて確信した。

まとめに変えて、人として大事なことを身に付けていくには小さい頃からの人との関係性のプロセスの中で一つ一つ少しずつ少しずつ備わっていくものであると改めて気づかされた。  
端的に言えば「人は人の中でしか人になれない」ということを心に留めおき保育をしていこうと思う。

0～2歳・3～5歳の乳幼児期という人間の最も大切な部分を担っていく仕事であることにやりがいを感じ、いくつになっても子どもから教わりつつ自分も成長をしながら子どもの素晴らしい未来を創っていくことに誇りを感じている。  
これからも子どもと同じ目線で遊びをみつめ、子どもが今何を感じて何に興味を示しているのかを学んでいきたい。